

当院の心臓カテーテル治療って？

循環器内科

下地 顕一郎

はじめに

カテーテル治療とは、手首や足の付け根から「カテーテル」と呼ばれる細い管を血管内に挿入し、狭くなった血管を広げて血流を回復させる治療のことを言います。その代表例が心臓カテーテルであり、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対して行われます。当院の心臓カテーテル手術件数は716件（平成29年度）であり、栃木県内1位となっています。ここでは、当院の治療について以下4つの特色をご紹介します。

1 急性心筋梗塞などの緊急手術が多い

急性心筋梗塞は心臓に酸素や栄養を送る冠動脈（図1）が急激に詰まってしまうため、すぐに治療を行い血液の流れを再開させないと命に関わる重大な病気です。当院は宇都宮医療圏で唯一の救命救急センターであり、夜間休日も24時間体制で患者さんを受け入れています。こうした結果、急性心筋梗塞の治療実績は全国7位（手術あり、平成27年度）となりました。

2 本当に必要なかを診断し、不必要な手術を行わない

胸痛などの症状がある場合や、冠動脈が明らかに狭くなっている病変がある場合は治療を行います。それ以外の場合には不必要な治療を避けるため、治療が本当に必要かどうかを各種検査で診断してから治療を行います。

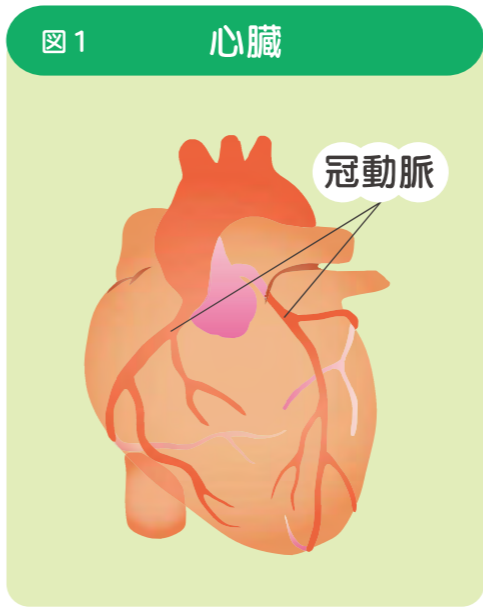


図1

3 難易度の高い手術が多い

心臓カテーテル治療はバルーンやステントを使ったもの（3ページ参照）が一般的ですが、当院では次のような難易度が高いとされる治療も積極的にを行っています。

●慢性完全閉塞性病変（CTO）

冠動脈が詰まってから3か月以上、多くは数年以上経過してしまつた病変を指します。カテーテルで治療を行うことが非常に困難な病変として知られていますが、当院では最新の技術を用いて90%前後の成功率を維持しています。

●方向性冠動脈粥腫切除術（DCCA）

動脈を狭くしてしまう原因になる粥腫を削り取って体外に回収する治療です（図2）。高速回転するカッターがついたカテーテルで、血管内の詰まった部分を直接削ります。詰まった削りかすは先端部に溜めておき、後ほど体外に回収します。これにより、異物であるステントの植え込みをなくす、あるいは最小限に減らすことが可能になります。当院では年間20件前後と、北関東の中では多くの症例を扱っています。

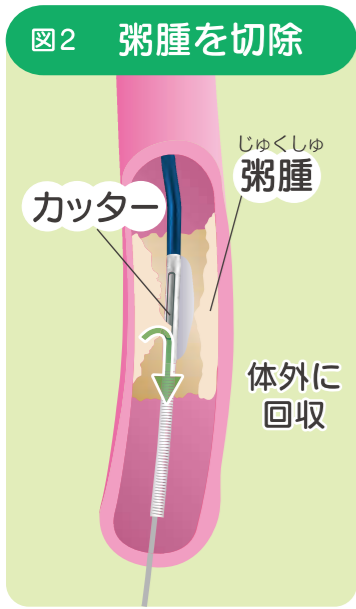


図2 粥腫を切除

4 全身の末梢血管のカテーテル手術も行っている

カテーテル手術も行っている



図3 病変部を削る

●回転式冠動脈アテレクトミー（ロータブレーター）
血管が硬くなってしまつた「石灰化」により、バルーンやステントでは血管の拡張が困難な場合に行う治療です。先端についたダイヤモンドをちりばめたドリルを回転させて病変部を削ります（図3）。石灰化が強い病変では劇的な効果をもたらします。

冠動脈に動脈硬化がある場合、全身、特に足の動脈に動脈硬化をきたすことがあります。閉塞性動脈硬化症（ASO）と呼ばれており、歩行時に足のだるさやふくらはぎの痛みを感じます。重症化すると安静時の痛みや指先の傷が治りにくいなどの症状が出ます。

下肢動脈の血流測定（ABR）やCT検査などで診断し、必要があればカテーテル治療で血流を改善することができます。大きな傷については形成外科なども連携したフットケアチームと協力して治療に当たります。

おわりに

これらの先鋭的な治療を行うために、定期的にエキスパート術者をお招きしたワークショップを開催したり、当院医師も積極的に研修に向いたりするなどして技術の維持に努めています。こうした結果、当院は栃木県内にながら最新鋭の治療を行える病院と自負しています。

このドクターに聞きました！

循環器内科 医長
心臓カテーテルセンター長

下地 顕一郎 医師

しもじ・けんいちろう

術中に起こりうる事態を術前のデータからすべてシミュレーションし、手術を成功に導くために最大限の努力をしています。



カテーテル中の様子